

第 5 回 四 極 会 寄 付 講 義

大分合同新聞社～紙とデジタルと PUB～

四極会寄付講義 5 回目の講師は大学 41 回（平成 5 年卒業）の伊達英寿氏。伊達氏は大分合同新聞社上席執行役員経営企画本部副本部長兼経営企画室長として新聞社の業務全体を見渡し、新しい展開を企画立案する立場にいる。

新聞が果たす重要な役割、大分合同新聞の概況、紙に限定されない同社の多彩な事業について語った。

○新聞の役割――もし新聞が世の中から消えてしまうと――

- ・世に出るべき情報が埋もれ、フェイクニュースが溢れる
- ・ニュースの取り上げ方が不均衡になり、政治や経済について国民の関心が薄れる
- ・権力の監視機能が失われ、強力な組織に力が集中する

○大分合同新聞の理念――とことん地域密着――



・大分県を豊かに
するお手伝い

・大分大学の記事も積極的に掲載。最近では経済学部が 100 周年を迎えることや、四極会のホームページがリニューアルされたことなども大きく扱った。

○大分合同新聞社の概要

- ・明治 19 年に発足した豊州新報が始まり。昭和 17 年に大いっ
あ新聞と合併して現社名に。国内の新聞社で唯一の有限会社
- ・県内のシェアは 59.7%
- ・社員の仕事には、記者の他、整理記者、営業部員、印刷部員、

販売部員、イベント事業部員など多くの部署がある

○デジタル展開

- ・ネットで配信するプレミアムオンライン Gate
- ・大分のスポーツを応援するオーエス (OS)
- ・大分銀行と共同で進めるクラウドファンディング Sandwich

○PUB

- ・本社の前に大人の賑わい交流拠点としてアイリッシュパブ HIVE (ハイズ) を運営。これには伊達氏が企画段階から関わった。

少子高齢化や若い人の活字離れ、デジタル化が進展する中で新聞社が繰り広げる多様な事業展開がよくわかるお話だった。

新聞社が求める人材として、何でもやってみようという新しい領域にチャレンジする姿勢を挙げた。

講師の座右の銘として紹介したのは

「永遠に生きるかのように学べ」

「明日死ぬかのように生きろ」

会場との質疑では



Q: 寄付講義で多くの先輩から新聞を読めと言われる。どこを読めばいいのか？

A: 初めは広告でも何でもいい。勧めたいのは1面下のコラム「東西南北」。地域の実態や政治経

済等にも精通したベテランの執筆陣が書いている。

Q: 地方紙は全国ニュースが弱いのではないか？

A: ローカルニュースが強みだが、全国ニュース・国際ニュースも強力な通信社「共同通信」と契約しており、紙面は充実している。